

講義名: コミュニケーション論[2] <春> 曜日1: 火1 担当教員名: 長崎 励朗		ナンバリングコード: COMM2400 曜日2:	
研究室: 聖アンデレ館7階715号室		オフィスアワー: 金曜日5限	メールアドレス: nagasaki@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』 『アクティブラーニング』			
講義・演習概要			
一般に「コミュニケーション」と言えば、人間同士のパーソナルな会話が想起される。そのため、メディアを介した「マス・コミュニケーション」とは別に語られがちである。しかし、本来これらは別個のものではない。コミュニケーションとは、ある主体が別の主体に情報を伝達する行為の全てを含むものだ。そのため、コミュニケーション研究はメディア論のみならず、社会心理学や文化人類学など複数の分野にまたがって展開されている。本講義ではこれらの知見を分野横断的に論じることで、「コミュニケーション」を捉える多角的な視点を提供する。			
学習(到達)目標			
コミュニケーションに関する幅広い知識を身につけることを通じて、一般に言われる「コミュニケーション能力」などの言葉に流されない自分なりのコミュニケーション観を構築してほしい。			
講義・演習計画			
【第1回】 ガイダンス			
【第2回】 コミュニケーションとマス・コミュニケーション			
【第3回】 コミュニケーション研究の系譜(1)―強効効果論と限定効果論			
【第4回】 コミュニケーション研究の系譜(2)―新強効効果論			
【第5回】 文字の文化と声の文化―日本型コミュニケーションとは何か?			
【第6回】 AIとコミュニケーション(1)―フィードバックと予言の自己成就			
【第7回】 AIとコミュニケーション(2)―人工知能とビッグデータ			
【第8回】 非言語的コミュニケーション			
【第9回】 社会学者たちのコミュニケーション論			
【第10回】 市民的公共圏は存立可能か?			
【第11回】 ハンナ・アーレントの公共圏論			
【第12回】 インターネット公共圏論			
【第13回】 民主主義とコミュニケーション(1)右翼と左翼			
【第14回】 民主主義とコミュニケーション(2)ヨロンとセロン			
【第15回】 まとめ			
成績評価の方法			
試験	100%	レポート	その他
コメント			
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> ・田崎 篤郎・児島 和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開』、北樹出版 ・佐藤卓己『現代メディア史』、岩波書店 			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)			
試験前にはノートを見直すことをおすすめします。 また、日常的には、授業の内容を踏まえて自身の周囲にあるものを観察してみること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧:コミュニケーション論)02~18生読替			